

スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会の 今後の体制・取組方針（案）

経済産業省

商務情報政策局 情報経済課

これまでの検討状況

- これまでスマートハウス・ビル標準・事業促進検討会では、傘下にHEMSタスクフォース及びディマンドレスポンスタスクフォースを設置し、各種検討を実施。
- 前回検討会にて、残課題として下記を提示。

スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会

HEMS-TF

- HEMS-スマートメーターBルート（低圧電カメーター）運用ガイドラインのメンテナンス
- ECHONET Liteの海外展開に向けた取組
- 小規模店舗用のENL機器（空調・照明・冷設・換気等）の仕様検討

DR-TF

- 日本版ディマンドレスポンスインタフェース仕様書のメンテナンス

残課題

- より高度なエネルギーマネジメントの実現に向けたユースケースの検討
 - ✓ 再生可能エネルギーに係る新たな出力制御システムの下でのHEMS活用のあり方
 - ✓ エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネスにおけるエネルギー関連機器の制御のために必要な通信規格等の検討

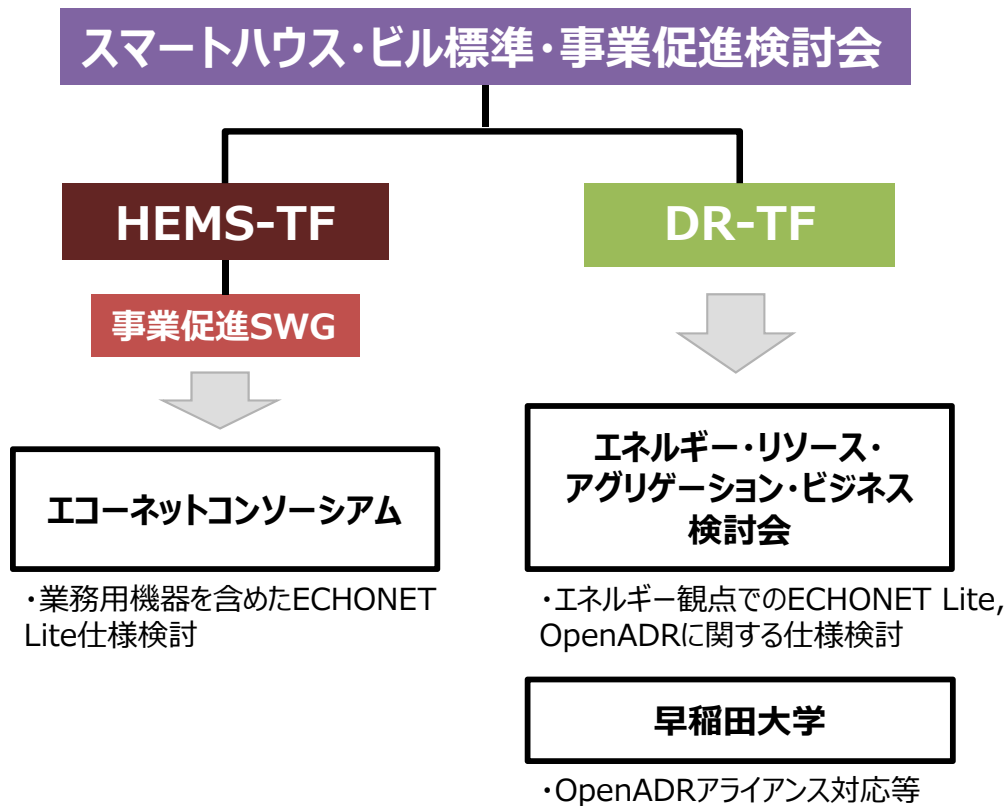
残課題への対応状況と今後の対応

- 昨年度は下記の対応を実施。
- 今後、エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネス及びスマートハウス普及促進の観点で検討を継続。

	残課題	対応状況	今後の対応（案）
HEMS-TF	HEMS-スマートメーターBルート（低圧電力メーター）運用ガイドラインのメンテナンス	—	必要に応じて、スマハビル検討会にて対応
	ECHONET Liteの海外展開に向けた取組	エコネットコンソーシアムにて、ASEANを重点地域として活動	エコネットコンソーシアムにて活動 更なる普及促進の観点で、スマハビル検討会で検討予定
	小規模店舗用のENL機器（空調・照明・冷設・換気等）の仕様検討	エコネットコンソーシアム、ERAB検討会にて、業務用空調・ショーケース・ヒートポンプ給湯器等の仕様拡張を検討	エコネットコンソーシアム、関連工業団体にて検討
DR-TF	日本版ディマンドレスポンスインタフェース仕様書のメンテナンス	—	エネルギーの観点で、ERAB検討会等で検討
横断	再生可能エネルギーに係る新たな出力制御システムの下でのHEMS活用のあり方	—	
	エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネスにおけるエネルギー関連機器の制御のために必要な通信規格等の検討	エコネットコンソーシアム、ERAB検討会にて、EVPS・エネファームの仕様拡張を検討	

今後の体制

- HEMSタスクフォースは所期の目的を概ね達成したことから終了し、エコネットコンソーシアム等の**民間主導による活動を推進**する。
- ディマンドレスポンスタスクフォースも終了し、ERAB検討会に検討の場を集約する。
- 新たに、普及促進タスクフォース（仮）を立ち上げ、**スマートハウスの普及促進に向けた検討**を行う。



【新体制】

スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会

普及促進TF

家電等の家庭内スマートデバイスの利用促進に向けた課題の洗い出し、解決策の検討

※メンバーはJSCA会員等から広く募集することとする。

【想定メンバー】

- ・スマートホームデバイス（スマート照明、ロック等）メーカー
- ・スマートホームサービス提供事業者
- ・住宅メーカー
- ・家電メーカー
- ・各工業団体 等

問題意識

【普及促進】

- ECHONET Lite対応機器は着実に増加しているものの、**Connected（ネットワークに接続されている）機器の増加**が伸びていない。
- HEMS情報基盤整備は出来たが、**実サービスの拡大**につながっていない。
- **スマートハウス関連サービス開発者人口**の伸びが鈍い。
- HEMS、ECHONET Liteの**ユーザーサイドの認知度**が低い。

【国際展開】

- Amazon Echo、Google Homeといった家庭内機器の**コントロールハブ**となりうる**デバイス**が台頭している。
- ECHONET Lite国際標準化は達成したが、**海外における認知度**はまだまだ低い。

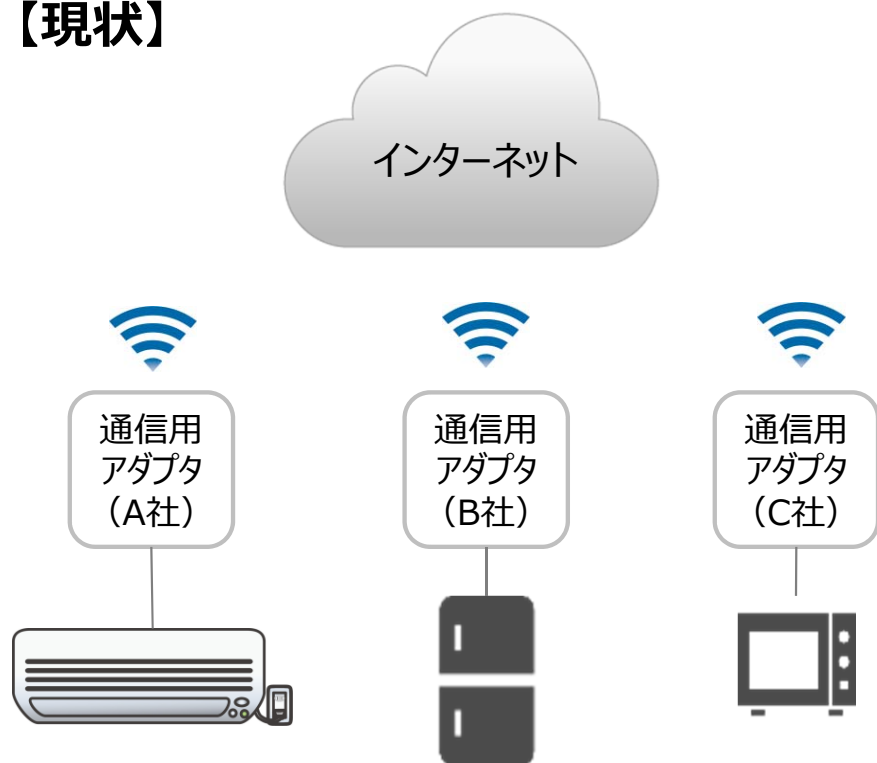


上記含めた課題の洗いだし、解決策の検討を行っていく必要があるのではないか？

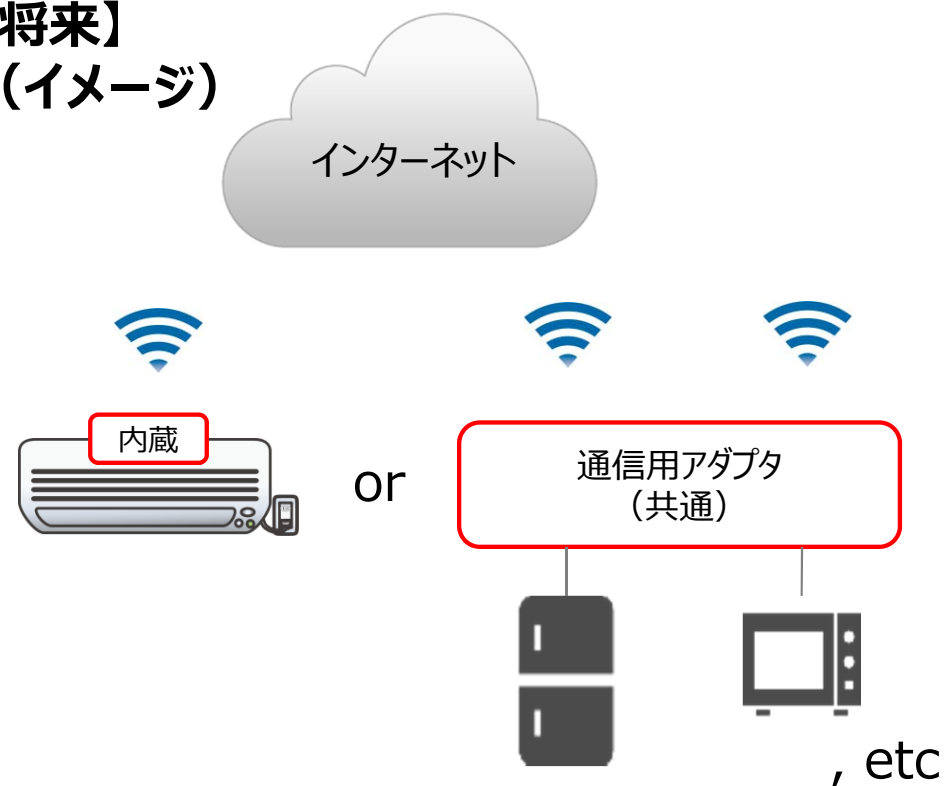
(例1) 機器のネットワーク接続 (Connected機器化)

- 機器をネットワークに接続するために、各社独自の別売通信用アダプタを必要とする製品が多いが、別売アダプタを購入してまでネットワーク接続するほどのサービス・価格的なポテンシャルは低い状況。
- スマートハウスにおけるサービス創出とConnected機器普及はいわゆる「鶏と卵」状態にあるが、サービス提供の基盤となるConnected機器普及という観点での検討を進めてはどうか。

【現状】

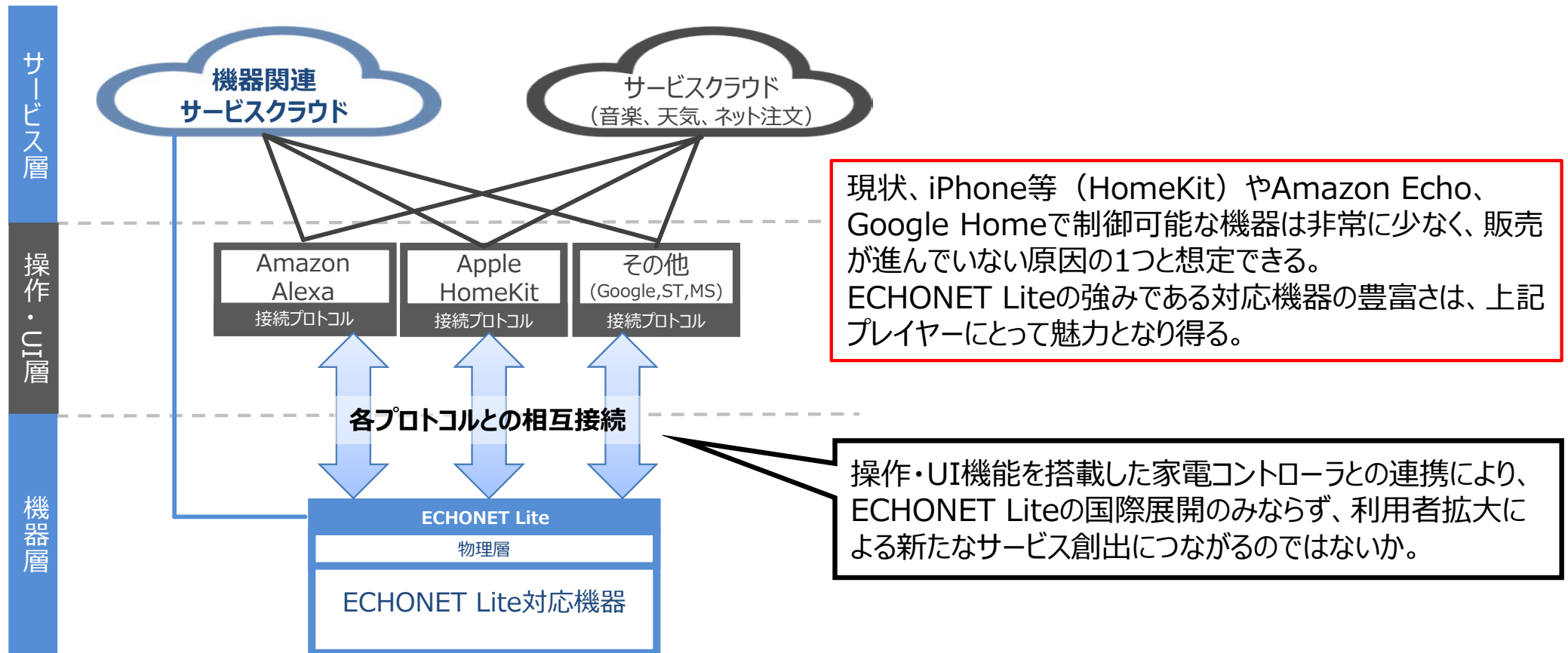


【将来】 (イメージ)



(例2) 家電コントローラとの連携

- 家庭内機器のコントロールハブとなりうるデバイスとの連携を加速することが、国内だけでなく、グローバルでのECHONET Lite認知拡大に寄与するのではないかと。
- Amazon Alexa, Apple HomeKit等の「操作・UI」機能に対応するため、例えば、各プロトコルとECHONET Liteとの相互接続を検討してはどうか。



スケジュール

	1Q(2017.4-6)	2Q(2017.7-9)	3Q(2017.10-12)	4Q(2018.1-3)
スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会	★4/19 第10回		★12月 第11回	
普及促進TF(仮)		▲8月 第2回	▲10月 第3回 (中間取りまとめ)	
	▲6月 第1回 (現状整理)		報告	

※開催時期、回数は変更の可能性あり